

「混ぜればごみ、分ければ資源」

～ 燃やすごみの減量化と資源化の徹底を～

ごみの量の状況報告

令和2年1月から燃やすごみ指定袋の値下げを行ったことによるごみの量の増減を調査し、毎月広報で報告してきました。今回は年間のごみの量を報告します。

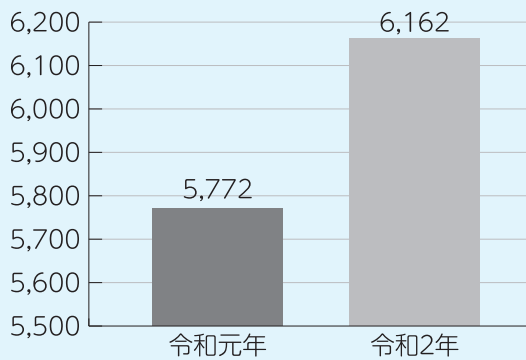
令和元年と令和2年の燃やすごみの量を比べると…

令和元年の燃やすごみの量は約5,772トン、令和2年の燃やすごみの量は約6,162トンで、約390トン増えました。本町は人口が増えているので、それに伴い、燃やすごみの量も増えていますが、1人1日当たりの燃やすごみの量で比べると、令和元年は約380グラム、令和2年は約400グラムで約20グラム増えてしまいました。

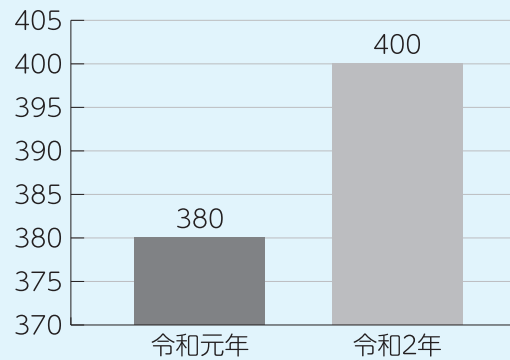
燃やすごみの処理費で見ると…

燃やすごみの量が増えたことにより、処理費も増加します。町の燃やすごみは、岡崎市に処理をお願いしていて、令和2年度の処理費は、1キログラム当たり18.4円です。約390トン増えたことにより、約720万円も処理費が増えてしまいました…。

年間の燃やすごみの量 (単位: トン)



1人1日当たりのごみの量 (単位: グラム)



燃やすごみの分別状況を調べてみると…

職員が燃やすごみの中からごみの分別状況を調査しています。

今回は1月5日に、ごみ袋14袋、重さ55キログラム分を調査しました。

分別収集で出すことのできるお菓子の袋、食品トレイなどのプラスチック製容器包装、紙パック、紙箱などのミックスペーパーが多数、燃やすごみの中に混入していました。これらのごみは分別することで資源に変わります。重さを量ってみると約1割に当たる、5.5キログラムが混入していました。

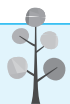
全ての燃やすごみの中に資源ごみが1割混ざっていると、年間約600トンもの量になります。

町内から排出されるごみの量は、県内トップレベルの優秀な成績を維持しています。しかし、ごみの量は、年々増加傾向にあり、燃やすごみの中身を確認してみると、リサイクルできる資源ごみが混ざっています。これを分別することにより、燃やすごみの量を減らすことができます。

ごみを減らして、きれいで住みよい町にしましょう!

ごみ対策グループ 玉木主事





生ごみ処理容器など設置の補助



対象者 町内在住で、生ごみ処理容器や処理機を設置する人

補助内容 購入金額の2分の1（100円未満端数切捨て）
補助限度額は、1基につき処理容器：6,000円、
処理機：30,000円まで
1世帯につき処理容器は2基、処理機は1基まで

* この補助金を利用して設置した生ごみ処理容器や処理機がそれぞれ3年を経過して、損傷などで買い換える場合に限り、もう1度だけ補助金を受けることができます。

申請方法 購入日から 60 日以内に申請書を提出してください（領収書など添付）。

申込み 環境課ごみ対策グループ ☎(0564) 62-1111
(内線 273) FAX63-5169

燃やすごみの中で、重量比が一番高いのは生ごみで、全体の約4割を占めています。
この生ごみの重量を各家庭で減らすことが、ごみ処理費用の削減につながります。燃やすごみとして出す場合は水を切る、食べ残しをしないなど重量を減らす工夫をしていただき、生ごみの減量化にご協力ください。
また、町では生ごみ処理容器など設置する際に補助をしています。ぜひご利用ください。



燃やすごみの減量化・資源化のお願い

減量のポイント①は、『生ごみ』



お菓子の袋 3 袋



茶碗蒸しとカップ麺容器



お菓子の箱 2 箱

前年と比べて増量した分の燃やすごみの量を減らすことは、大変だと感じてしまうかもしれませんが、毎日のごみから写真のようなものを少しずつ分別するだけで、大きな減量となります。

環境保全グループ 壁谷主事



令和2年の1人1日当たりの燃やすごみの量は、令和元年中より約20グラム増えてしまいました。これを例えたと、お菓子の箱が2箱で22グラム、カップ麺と茶碗蒸しの容器で21グラム、お菓子の袋が3袋で21グラムになります。これらは、燃やすごみ指定袋に入れられて、燃やすごみとして出されていた資源ごみです。

減量のポイント②は、『分別』



問合せ 環境課ごみ対策グループ
☎(0564) 62-1111
(内線 273)
FAX 63-5169



先ほど述べたように、燃やすごみの中には、まだまだ分別へ回せる資源物が混ざっています。
分別の徹底は、少し手間ですが、「ちりも積もれば山となる」という言葉がある通り、一人一人がほんの少し分別の意識を持つて行動することで燃やすごみを確実に減らすことができます。ごみを減らすことは、自分や家族、ひいては地球環境を守るにつながります。
燃やすごみを減らすには、町民の皆さんの協力なしにはできません。ミックスペーパーやプラスチック製容器包装の分別を意識して、燃やすごみではなく、資源ごみとして各行政区の分別ステーションに出しましょう！

